

令和3年度 一般・特別会計&企業会計決算を認定

() 前年比

一般会計	歳入	139億2,792万円	(15.72%減)
	歳出	128億924万円	(19.20%減)
特別会計	歳入	76億8,992万円	(3.17%増)
	歳出	66億3,205万円	(1.03%増)
企業会計	上水道事業 純利益	7,239万円	
	公共下水道事業 純利益	3,434万円	

決算特別委員会への付託議案

決算特別委員会

委員長 松永 民夫
副委員長 水谷久美子

9月8日・9日の両日にわたり決算特別委員会を開催し、令和3年度一般会計並び特別会計及び企業会計の決算について集中審査を行った。その結果、委員会では全ての決算を認定すべきものと決定した。その中から、会計ごとにいくつかの主な質疑を報告する。

一般会計

●令和3年度 養老町一般会計歳入歳出決算認定

入札について、官製談合事件を受け2017年からの落札率の検証はされているのか。

問 令和4年度より予定価格を公表してからは、落札価格が低い結果が頻発しており、落札率については若干低下傾向にあると考えられる。第三者委員会は様々な検証や原因究明を目的のもとに開催しており、その中で協議されていくものと考えている。

答 移住定住について、都市圏などから移住実績は。また新たな制度の拡充は検討されているか。

問 移住定住について、都市圏などから移住実績は。また新たな制度の拡充は検討されているか。

答 令和3年度に東京圏からの移住が1件あり、県・町から補助金を交付している。県の補助金制度や、町の三世代ハッピースマイル事業補助金について引き続きPRをしていく。

問 オンデマンドバスについて、セミデマンド化をするための実証実験の結果は。

答 令和3年8月よりセミデマンドの実証実験を開始しアンケートも実施した。ルートの見直しなどを踏まえて今年度も運行してきたが、利用数は1日平均1人から2人であり、限られた車両を運行する中で、オンデマンド利用者への対応なども踏まえ、9月末日をもってセミデマンドの実証実験を終了した。

問 観光活性化事業について、養老の新しい名物を作る事業の実績は。

答 養老公園観光拠点整備プロジェクトで、新商品開発を実施し、3商品作り上げた。そのうちの2商品については今年度当初にブランド認証をしている。

問 3淹めぐりに関する整備状況は。

答 県において落石の撤去などが実施され、継続して落石防止のネットや柵などの設置をしている。滝谷の中では階段の設置が実施されている。

問 小学校・中学校情報化推進事業について、実施した結果をどう検証しているか。

答 まずはタブレットに慣れること、使用環境を整えることを目的とし体制を整えてきた。また、教員を対象としたタブレット操作研修も行ってきた。今後は協同学習や交流などにもタブレットを使用するなど、活用方法について工夫していきたい。

問 令和3年度における不登校の現状と対策は。

答 年間30日以上欠席した子が不登校と定義され、令和4年7月現在、小学校2名、中学校17名。夏休みの間に不登校である子どもと保護者と面談を行い、見通しを持って夏休み明けを迎える、という取り組みを行った。さらに、将来、社会的自立に向けた支援として、様々な関わりを持つような取り組みを実施している。

問 町が今後、どのような方向性で、どのように発展させていくかを見通した先行的な投資について、しっかりと精査する必要がある。今後の人口減少は、危機的な状況であると認識しており、関係人口や交流人口を創出する中で、財源の確保をしっかりと行い、無駄な起債はおこなわないのが一番ではないかと考えている。

問 令和3年度の差し押さえ状況と今後の方針は。

答 国税還付金の差し押さえが5件、給与差し押さえが3件、預貯金の差し押さえが16件の計24件。徴収金額は前年度分の差し押さえを含め26件で341万2590円。今後、預金調査等のデジタル化の導入を協議し進めていきたい。

特別会計

●令和3年度養老町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定

外国人が出国し、保険税が未徴収となることに対する対策は。

問 外国人が出国し、保険税が未徴収となることに対する対策は。

問 督促等の書類を通常の納付書と色分けしていることに対する考え方や意図は。

答 督促状送付において、時効の発生基準日となるため、目付きやすく認識しやすいことは大切だと認識している。近隣市町の現状を把握し踏まえた上で、必

要があれば変更も検討していく。

問 令和3年度の差し押さえ状況は。

答 国税還付金の差し押さえが1件、給与差し押さえが1件、預貯金の差し押さえが5件の合計7件。徴収金額は前年度分の差し押さえを含め12件で徴収金額175万8763円。

問 短期保険証発行数と期限別内訳は。

答 全体として109世帯、173名に交付している。内訳は、期限6カ月が35世帯48名、3カ月が23世帯41名、1カ月が51世帯84名。

●令和3年度養老町立食肉事業センター特別会計歳入歳出決算認定

問 修繕費等において見積もり業者が1社しかない場合が散見されるが、理由は。

問 5年を経過する私債権として残るが、その件数と金額及び私債権の処理について、今後の考え方は。

答 5年を経過する私債権として残るが、その件数と金額及び私債権の処理について、今後の考え方は。件数4204件、金額19996万664円。現在誓約して徴収できる債権については、今後も催告書などを送付し、徴収に努めたいと考えている。また、亡くなられた方や、転居などで居所不明の理由での徴収不納分については、債権放棄を検討している。

問 介護保険の加入者の人数、認定者の人数と認定区分それぞれ的人数は。

答 介護保険の加入者の人数は9464名で、認定者数については要支援1が209名、要支援2が218名、要介護1が288名、要介護2が305名、要介護3が235名、要介護4が254名、要介護5が106名で、合計1615名。

●令和3年度養老町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定

問 介護保険の加入者の人数、認定者の人数と認定区分それぞれ的人数は。

答 介護保険の加入者の人数は9464名で、認定者数については要支援1が209名、要支援2が218名、要介護1が288名、要介護2が305名、要介護3が235名、要介護4が254名、要介護5が106名で、合計1615名。

●高齢者徘徊SOSネットワーク事業についての実績や評価は。

問 高齢者徘徊SOSネットワーク事業についての実績や評価は。